





02.前回最後の鉄道橋から開始

布留川の土手道を自転車ですんどん下って行くが、か細い流れで河原に茂った草に水面が隠れている。奈良盆地は丸亀平野、東播地区と並び雨が少なく溜池の多い所である。水量豊富な大きな川が無いので水は超貴重品で、この川が途中で南北に分かれて流されているのはこの水を北の方にも分配するために設けられた物と判断する。

川を越える橋は古い橋が多く、状況はあまり良くないが「北大橋」と示されたコンクリートの市道橋は最近橋全体が修復リニューアルされて輝いているぞ。



03.か細い流れで水面は見えず



04.橋脚、桁、高欄全て塗装されて  
リニューアル

大和川への合流点までやって来て本流の土手を下流に向かう。すぐの本流遡行時に診た橋の上から合流点を見ると、水量豊かに流れているように見える、が直ぐ下流の堰が水面を嵩上げしているのだ。大和川は流域面積に比べ上流部の森林面積が狭く、川の縦断も緩い川でその姿は四国などの川から見れば貧相である。これでよくぞ大和朝廷が成立したものだ。



#### 05.本流（右）との合流点、堰で水面が上昇している

本流遡行時に歩いた土手道を自転車で下流の「布留川北流」に向かう。一つの川が河口近くでもないのに途中で二手に分かれて流れる川は初めてである。1.5km先の北流の本流への合流点には前回立ち寄ったミニ公園があり、その解説板には北流の文字が入っている。ここから北流を遡行することにする。



#### 06.北流の合流点のミニ公園に再度やって来た

土手道を天理に向かうと現れるわ、現れるわ、橋が次から次と現れるではないか！途中「いなり橋」に来ると橋際にそのお稲荷さんが有る。八幡橋、天神橋、いなり橋、神社の前の橋の名はみんな神様の名前である。





07.「いなり橋」の向こうに稲荷神社が

市街地近くまで来ると大きな立派な建物が建っている。訓練塔やホース干し場が有るので消防署のようだが、それにしても大きく立派な消防署らしく見えない建物だ。正面に廻ると消防車が居る居る。天理教の寄付金のお陰かな？佐保川遡行時に会った奈良県立図書館の姿によく似ているぞ。



08.この大きな建物は何だ



09.超モダンな消防署だった

最初の橋の直ぐ北側まで来て北流の市道橋の親柱を見ると、川名が「布留川南流」となっている。すぐ南の橋は当然「布留川南流」となっている。どういふこっちゃー、南ということだ。



10.北流に架かる市道橋の親柱には「南流」の文字が

更に東に進み分岐部の手前で終わりとして駅に向かう。自転車を返す時には老夫婦は店に居らず息子さんに対応してくれる。38もの橋を2時間半で見ることが出来た。これで大和川右岸に注ぐ支流の全てを踏破した。次は鉄道貨物のヤードのように川（線路）が数多くの平行した流れから集まる大和川独特の左岸側の支流群である。

本日の輪行距離：12.6km。調査した橋の数：14+24=38.

総歩行距離：10,455.0km。総調査橋数：13,309。

使用した1/25,000地形図：「大和郡山」（和歌山1-3）、「桜井」（和歌山1号-4）